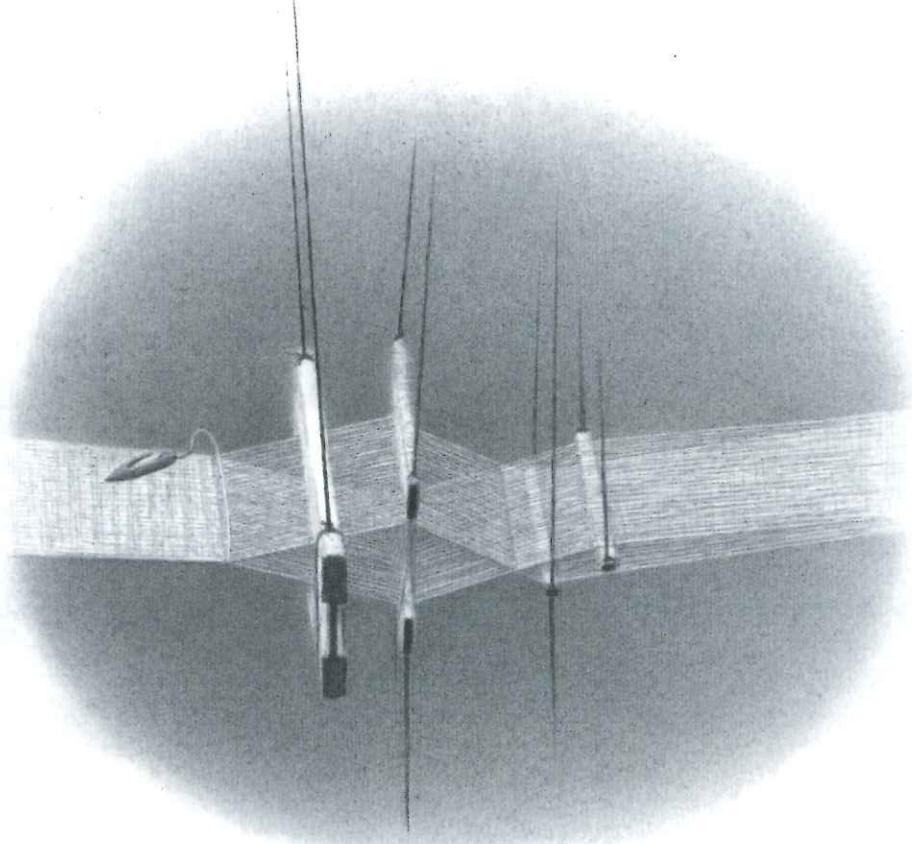


藤並の森

藤並の森

藤並の森

Vol.57



錦

▲錦挿絵／二川和之 画

リレー随筆

「藤並の森」の思い出 — 宮尾登美子

みやおとみこ
登美子

現在、高知県立図書館と高知県立文学館が併設し、4月から「宮尾登美子の『錦』と龍村平藏の『美』」展開催予定の「藤並の森」に思いを馳せる。

あれは、戦争たけなわの昭和17・8年、高知市内に住む女学生の通学路に厳しい規制が布か

れていて、そのなかに、「高知市内在住の者は、一、乗り物に乗ってはいけない。二、高知城の茂み及び藤並の森を通り抜けってはいけない」というのがあった。

昔は、城山の木も藤並の森もうつそと、昼なお暗く茂らせていたから、この中で犯罪でも起こつたら面倒だと先生方は考えられたのではないか。というわけで、森の中の図書館には縁遠かつたが、それでもはりまや橋に家のあつた27・8才にしてやつと図書館の門をくぐつたというのは、笑い話にもならない。

しかも、何かを読もうとか、調べものをするためではなくて、そのころ患っていた肺結核の病院通りの道すがら昔「通り抜けってはいかん」と言われた藤並の森はどんなに気味の悪い話やろうかという、好奇心だけののぞき見だった。

確かに、新潮社刊の重い本だったと記憶しているが、家に持つて帰るまでに幾度も滑り落としては拾い拾いしてようやく家に着いてページを繰つてみると、主人公のアンリエット夫人の身上は、当時の私の理解を超えるもので難しくて解らなかつた。

これを契機に猛然と勉強はじめたかといえばさにあらず、しばらくは、読書から遠ざかり、このあと20年以上もかけてやつと自分の世界を作り上げてゆくのである。

(作家)

昭和28年の森の中は未だ復興ならず、開架式の書棚は、スカスカで本は至つて少なかつた。割れたガラス窓もそのままの個所が多く、そして当然の事ながら入館者はチラホラという寂しさだった。

展覽會紹介
Exhibition

龍尾登美子の『錦』と

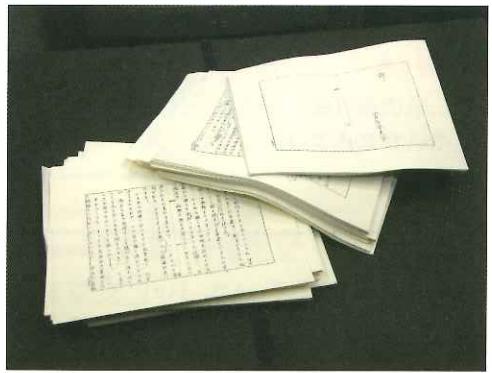
龍尾平藏の「美」展への誘い



平成24年
4月10日(火)
▼
5月27日(日)
企画展示室
観覧料500円

京都西陣の織物街を舞台に、西陣織の商売の世界を、創意と工夫と研究で乗り切った男性の一生を、西陣織そのもののような綿密さで描ききつた宮尾登美子の作品『錦』とそのモデルとなつた初代・龍尾平藏の「人と仕事」を紹介する展覧会です。

春のひととき『錦』の世界をお楽しみください。



▲『錦』原稿／宮尾登美子直筆

平藏は、法隆寺、正倉院などに伝わる古代裂など伝統的な織物の研究に力を尽くし、復元の第一人者として織物の地位を「藝術の城」にまで高めた人物として知られています。

今回の展覧会では、第一部で、宮尾登美子さんの小説『錦』の世界を紹介します。

第二部で、株式会社 龍村美術織物の協力のもと、初代龍尾平藏と彼が愛した織物の絢爛たる「美」の世界を紹介します。

第1部 宮尾登美子『錦』

(会場／文学館常設 宮尾文学の世界室)

これまで、宮尾さんは、日本の伝統文化や歴史上の女性の生き方をテーマに、数々の名作を執筆し続けてこられました。

そんな中、今回紹介する『錦』では、菱村吉蔵という男性が主人公として登場します。

宮尾作品においては大変珍しいことです。かつて、宮尾さんは、父猛吾さんをモデルに、主人公の語りで物語が進行する短編集『岩伍覚え書』を書かれていますが、この『錦』は、織物にすべてを懸けた男性の生涯が描かれており、

宮尾さん渾身の大作と言えます。主人公菱村吉蔵のモデルとなつたのは、織物の世界に「美」の要素を持ち込み、伝統的な織物の研究を行つた、初代龍尾平藏です。

今回の展覧会では、宮尾さんの執筆された『錦』の原稿をはじめ、関連のエッセイ「絵画とも見まがう錦」「錦うらばなし」など多数ご紹介いたします。

宮尾登美子さん

2008(平成20)年の「菊池寛賞」受賞、2009(平成21)年の「文化功労者」選定、「親鸞賞」受賞とその功績が認められ、近年においても次々と各賞を受賞されている

宮尾登美子さん

2012(平成24)年4月13日に86歳の誕生日を迎えましたが、今なお、その創作活動が衰えることはありません。



▲『錦』挿絵／二川和之 画

二階ロビーにおいては、「錦」に見る名物裂のご紹介や「吉光集」で紹介されている与謝野晶子の歌と織りの美の競演をお楽しみいただきます。また、復元の工程などもご紹介します。



▲『錦』宮尾登美子著
2008年6月初版 中央公論新社

会 覧 展 紹 介

宮尾登美子の「錦」と 龍村平蔵の「美」展への誘い

平成24年
4月10日(火)

▼
5月27日(日)
企画展示室
観覧料500円

☆展示解説

展覧会担当者による
展示解説を行います。

毎週土曜日

各日とも午後1時半～
(約30分)
参加には**当日観覧券**
が必要です。
直接会場にお越しく
ださい。



▶初代 龍村平蔵

貴人」、「名物裂・早雲寺文台(早雲寺裂)」、「花鳥文金唐革錦」などの仕覆、「大正8年以前に創られた国宝日暮文蒔絵錦」をはじめとする丸帯など、平蔵が取り組んだ作品の数々を

- ①古代裂
- ②有職裂
- ③伝統美の復元
- ④平蔵を支えた絵師たち
- ⑤古典への回帰と融合
- ⑥クリスチャン・ディオールとの競演

と題し、株式会社龍村美術織物の全面的な協力をいただきご紹介します。龍村平蔵の絢爛たる織物の「美」の世界をご堪能ください。

(学芸課長／津田加須子)

第2部 龍村平蔵の「美」

(会場／文学館企画展示室)

このコーナーでは、初代龍村平蔵の「人」と彼が愛した「織物の美しさ」とを紹介します。

兩替商を営む祖父の元で、幼児の頃から、茶道や華道、謡や仕舞、俳諧などに親しんだ龍村平蔵は、家業の没落後も、龍村製織所を立ち上げ、織物の組織の研究や改良に積極的に取り組み、数々の発明、改良を成し遂げた人物として広く世に知られ、作家芥川龍之介は「恐るべき芸術的完成」と彼の作品を評価しています。



▲銘「玉簾」仕覆

ここでは、平蔵の書「日日是好日」「無事是貴人」、「名物裂・早雲寺文台(早雲寺裂)」、「花鳥文金唐革錦」などの仕覆、「大正8年以前に創られた国宝日暮文蒔絵錦」をはじめとする丸帯など、平蔵が取り組んだ

◆関連企画のご案内◆

■記念講演会① 「長編小説の世界」

文庫版『錦』のあとがきを執筆した作家・加賀乙彦さんによる記念講演会です。

日 時：平成24年4月29日(日) 午後2時～午後3時30分頃

講 師：加賀乙彦氏(作家)

場 所：高知県立文学館1Fホール 定 員：100名

参 加：要当日観覧券 申 込：電話または文学館受付にて事前申込

■記念講演会② 「織物美術と龍村平蔵」(仮)

書家であり、4代にわたる龍村平蔵に仕え、美術織物発展のために力を尽くした白井進氏による記念講演会です。

日 時：平成24年5月12日(土) 午後2時～午後3時30分頃

講 師：白井進氏(株式会社龍村美術織物／顧問)

場 所：高知県立文学館1Fホール 定 員：100名

参 加：要当日観覧券 申 込：電話または文学館受付にて事前申込

■朗読の会 「宮尾作品より～『錦』を読む」(仮)

文学館カルチャーサポーターによる朗読です。

日 時：平成24年5月19日(土) 午後2時～午後4時 参 加：無料

場 所：高知県立文学館1Fホール 申 込：当日、直接会場にお越しください。

■文学散歩 「宮尾登美子ゆかりの地を訪ねる」

得月楼での食事と宮尾登美子ゆかりの地を訪ねる文学散歩です。詳細はお問合せください。

日 程：平成24年4月19日(木)、5月8日(火)

料 金：3,000円位(電車代、昼食、文学館入館料、保険代等)

田岡嶺雲

没後100年展開催！



平成24年4月1日(日)～

平成25年3月31日(日)

**好評の“変わる常設展示”！
企画コーナーが新しくなります。**

高知県ゆかりの文学者のメモリアルイヤーなどに着目して紹介する常設展示室企画コーナーでは、9月7日に没後百年を迎える田岡嶺雲の展示を開催します。

田岡嶺雲(1870～1912)は、19世紀の末から20世紀の初めにかけて、文壇や論壇で華々しく活躍しながら、その後、世間からその名前も業績もほとんど忘れ去られた数奇な文学者であり、思想家です。彼が忘れられたのは、反体制思想家として時の政府に強い異議を申し立てたため、主要な著作集『壇中觀』・『霹靂鞭』・『病中放浪』などが次々と政府によって発売禁止にされたことなどによります。



▲田岡嶺雲 著作の数々

相次ぐ発禁処分に遭いながら、時に病と闘い、不屈の精神で生涯ペンを執り続けた嶺雲の作品の数々とその活動の軌跡を、会期中一定の期間ごとに入れ替えを行ながら、たどっていきます。

嶺雲は少年時代、土佐の自由民権運動の中で育ち、その影響は生涯に及びました。1894(明治27)年に文科大学(現・東京大学文学部)を卒業後、感受性の鋭い文芸評論家として活躍、樋口一葉や泉鏡花の才能をいち早く認めました。その後、社会の改革者として現れ、維新に続く第二の革命も提唱、労働者の基本的な権利であるストライキも支持、幸徳秋水とは心を許した友でした。また、戦争の残酷性を告発したり、岡山県知事の教科書汚職事件を摘発、逆に「官吏侮辱罪」に問われ投獄されました。その他、女性の根源的解放を説く女子解放論の執筆など、その業績は多彩です。

(学芸課／野々村昭美)



▲『ゲッティンゲンの余光』と『独逸だより』

今回の展示では、高辻亮一の寄せ書きのあるはがきを含め、寅彦がゲッティンゲン時代に書いた書簡や、高辻亮一の『独逸だより』、高辻玲子さんの『ゲッティンゲンの余光』等を展示します。

(学芸課／永橋禎子)

寺田寅彦記念室

ミニコーナーの入替を行います！

寺田寅彦記念室のミニ企画コーナーを、4月下旬に展示入替します。

今回のテーマは「ドイツ留学—ゲッティンゲン時代」。寅彦のドイツ・ゲッティンゲン留学時代のことは、回想が少ないこともあり、あまり知られていません。

この頃の寅彦の消息を伝える資料の一つに、寅彦と同時期にドイツ留学した高辻亮一の日記があります。のちにこの日記を孫の高辻玲子さんが『独逸だより—月沈原の巻』と題して出版しました。しかし私家版で限定50部しか出されなかつたため、今ではほとんど手に入れることが出来ません。

ところが最近、——嬉しいニュースが入ってきました！一つは高辻玲子さんが『ゲッティンゲンの余光』と題してこの日記を元に本を出されたこと。もう一つは、寅彦のご遺族から、私家版の『独逸だより』を当館へ

ご寄贈いただいたことです。

今回の展示では、高辻亮一の寄せ書きのあるはがきを含め、寅彦がゲッティンゲン時代に書いた書簡や、高辻亮一の『独逸だより』、高辻玲子さんの『ゲッティンゲンの余光』等を展示します。

お見逃しなく！

くじらの里・東海岸——山本一力「くじら組」など——猪野 瞳

先日、手結から室戸へと右手にひろがる早春の太平洋をみながら東へ車で走った。吉良川をすぎ

るあたりから亜熱帯植物が海岸沿いに繁り、黒耳あたりの山の斜面には袋をかけた早どり枇杷がみえた。このあたりから室戸岬にかけてが近世以降、出没する鯨とりをなりわいとしてきたところであつたのか。近世から幕末にかけて室戸には藩の支庁があり、野中兼山が手がけた津呂港もあり、勇壮な手漕ぎ舟の鯨とりがにぎわっていた。

沖には濃紺の黒潮がくつきり帶になつて流れ、そのなかでふと鯨が潮を吹くのではないかと思わすものがあつた。室戸東海岸ではホエールウォッキングもやつており、「おらんぐの池」にや潮吹く魚も泳ぎよる“というよさこい節の陽気な一節もうかんだ。

◆室戸岬((財)高知県観光コンベンション協会/提供)

河田小龍が万次郎にききとつて作成した「漂翼紀略」にある黒船とわかる。それが室戸沖を東へむかつっていた。

大胆な構想で幕末情勢と津呂の漁師たちの壮大な鯨をめぐる絵巻きといつていい小説だった。鯨ぐみの男たちの度胸、鯨への思いやり、藩と幕府とのかかわりかけあいを書きあげたものだった。

室戸までの途中の道の駅キラメッセの白壁うだつ化粧の館には、天井いっぱいに二頭の鯨の全身骨格が見上げられ、それにいどんだ手漕ぎ船、鉛などがあつて、二〇〇人あまりの漁師が網を敷き鯨をからませとる壮絶な物語が浮かぶものだつた。

前の国道には笠にリュックサックの次の札所へ急ぐ遍路姿があつた。室戸の津照寺、金剛頂寺をすませ、次の神峯寺まで海ぞいに潮の香をかぎ一日かけて歩いてゆくのだろう。(詩人)

桂浜の旧制高知高校寮歌碑には「この浜寄せ

る大潮はカリフォルニアの岸を打つ」とほりこまれていたが、この海は世界にむけて開かれていたという進取性もあつたろう。室戸岬は早くからこの国定公園であり、戦前絵はがきにもなつてきただが、最近ではジオパークになつて奇巖でにわかに活気づいてきている。

この室戸の幕末の世界を、幕末の政治情勢、幕府に開港をせまる黒船来航時代にあわせて、小説に仕立てあげているのが山本一力「くじら組」だつた。秋から三月末までの期間、回遊する鯨を見張り仕止め。その鯨を見張る山見の眼に異様な煙を吐いて東へむかう黒船が入る。藩の室戸支庁から藩へ、藩から江戸藩邸へ、そこから幕府に知らせる。

河田小龍が万次郎にききとつて作成した「漂翼紀略」にある黒船とわかる。それが室戸沖を東へむかつっていた。

大胆な構想で幕末情勢と津呂の漁師たちの壮大な鯨をめぐる絵巻きといつていい小説だった。鯨ぐみの男たちの度胸、鯨への思いやり、藩と幕府とのかかわりかけあいを書きあげたものだった。

室戸までの途中の道の駅キラメッセの白壁うだつ化粧の館には、天井いっぱいに二頭の鯨の全身骨格が見上げられ、それにいどんだ手漕ぎ船、鉛などがあつて、二〇〇人あまりの漁師が網を敷き鯨をからませとる壮絶な物語が浮かぶものだつた。

前の国道には笠にリュックサックの次の札所へ急ぐ遍路姿があつた。室戸の津照寺、金剛頂寺をすませ、次の神峯寺まで海ぞいに潮の香をかぎ一日かけて歩いてゆくのだろう。(詩人)

—寄贈資料から—

「第2回箕面・世界子どももの本アカデミー賞受賞作品賞 オスカーライ像」

有川 浩著 Y.A.作品賞

受賞作『フリーター、家を買う。』
有川 浩著 2009年8月
幻冬舎刊 寸法10×10×32cm
有川 浩氏寄贈



資料受贈報告

受贈報告(平成24年1月～2月)敬称略

▼有川 浩・「兵庫県芸術奨励賞賞状」「第2回箕面・世界子どももの本アカデミー賞受賞作品賞 オスカーライ像」

留學日記 高辻亮一著 高辻正基・玲子編「他」

潮社刊「他」 市原麟一郎・高知のパワースポット

ごりやくめぐり 市原麟一郎著 高知新聞社刊「他」

橋詰登志子・「句集」葛の花 橋詰登志子著「他」

アララギ女性歌人十人 三宅奈緒子著 短歌新聞社刊「他」 中央公論新社「寺田寅彦漱石・レイ

リ一郎と和魂洋才の物理学 小山慶太著 中央公論新社刊「他」 猪野瞳・日本地理大系8 中國・四國篇 山本三生他編 改造社刊「他」 売発行所・

(句集)料峭 濱田りょう子著 売発行所刊「他」

▼上田百合・青い波がくずれる 戸石泰一著 東邦出版社刊「他」 井上智重・異風者伝 近代熊本の人物像 井上智重著 熊本日日新聞社刊「他」 山本清水・(詩集)ストレイシープ 山本清水著 青樹社刊「他」 ▼笛川記念保健協力財団・ハンセン病文学全集全10巻 大岡信他編 星社刊「他」 平野千里・「わかき日(復刻版) 平野万里著 わかき日復刻版刊行会刊「他」

り受賞作品が決定されます。平成23年度は、2004年、第10回電撃小説大賞(大賞)受賞作「塩の街」でデビューし、その後も「空の中」「海の底」「図書館戦争」など、話題作を次々と発表。昨年末には、高知を舞台にした小説「県庁おもてなし課」が、「ダ・ヴィンチ Book of the Year 2011」の総合ランキンギで1位に選ばれるなど、デビュー以来、多くの読者を魅了し続けています。

今回ご寄贈いただいた「第2回箕面・世界子どももの本アカデミー賞 Y.A.作品賞 オスカーライ像」も、有川さんの作品の人気の高さ、とりわけ、若い世代の支持を圧倒的に集めていることを示す貴重な資料と言えます。

箕面世界子どももの本アカデミー賞は、2010年の「国民読書年」を契機に大阪府箕面市が創設した賞で、市内の小・中学校の子どもたちの投票結果によ

(学芸課) 小松路代

このほか、全国の個人・関係機関の方々から図録など数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

● 星野富弘 花の詩画展について

「感謝の心」

元吉 喜志男



▲オープニングセレモニーの様子

高知県で初の「星野富弘 花の詩画展」が3月1日(木)に開幕しました。初日のオープニングセレモニーと記念講演会には沢山の方々がつめかけてください、賑やかなスタートとなりました。記念講演会では、富弘美術館の前館長である須藤池一郎さんが「詩画を通して星野富弘さんを語る」というテーマで、星野さんの作品の背景などについてお話し下さいました。高知県での「花の詩画展」の開催を30年間も待ち続けていたというお客様もいて、改めて星野作品の人気の高さを実感させられました。展示会場には、星野さんのこれまでの歩み・影響を受けた作家や詩人・故郷の風景・星野さん自らが語る映像コチラなどもありました。その奥の企画展示室には、実際に忠実な草花の水彩画に素朴で優しい詩が添えられた60点の作品が並び、連日多くのお客様に観覧いただきました。

また、県民文化ホールでの岩渕まいと・由美子夫妻の記念コンサートも含め、全国初の文学館での展覧会は、深い感動を残してくれました。(学芸課／北添尚子)

講演会には沢山の方々がつめかけてください、賑やかなスタートとなりました。記念講演会では、富弘美術館の前館長である須藤池一郎さんが「詩画を通して星野富弘さんを語る」というテーマで、星野さんの作品の背景などについてお話し下さいました。高知県での「花の詩画展」の開催を30年間も待ち続けていたというお客様もいて、改めて星野作品の人気の高さを実感させられました。展示会場には、星野さんのこれまでの歩み・影響を受けた作家や詩人・故郷の風景・星野さん自らが語る映像コチラなどもありました。その奥の企画展示室には、実際に忠実な草花の水彩画に素朴で優しい詩が添えられた60点の作品が並び、連日多くのお客様に観覧いただきました。

星野富弘さんご本人に手紙を出し、富弘美術館にご協力を依頼して準備を始めたのが一昨年の秋でした。その後、関係者の方々の温かいご支援により、この3月晴れて高知の地での開催が叶いました。

展覧会に向けては、ある種の感慨と熱い思いを持って取り組んでいました。その準備も佳境に入った今年の1月中旬、左腰と左下肢に原因不明の痛みを覚えるようになりました。CTやMRIを撮った結果、病名は特定疾患(いわゆる難病)でした。検査入院で造影検査後、2月17日に手術。展覧会の初日は病院のベッドの上、術後も続く痛みで記念コンサートにも出席できず、実際に情けなく、もどかしい思いの日々が続きました。

しかし、2足歩行が出来、普通の生活が送れる」との有難さを、頭だけでなく自身の身体で改めて実感したこと。家族・職場の同僚、知人の方々、医療関係スタッフの人達から、あたたかい心や心配りを体感したこととは、星野作品の中にちりばめられている感謝の気持ち、相手を思いやる心、生きていることの意味、自然の素晴らしさ等を考える力が少しだけ深まったのかかも知れません。

● ミュージアムショップより

新年度が始まりました。

ミュージアムショップでは今年度も様々な展覧会に合わせた商品を用意してまいります。

3月末まで開催されていた「星野富弘 花の詩画展」。春という季節にふさわしい星野さんのあたたかい花々の詩画がミュージアムショップを華やかに彩りました。

4月からの展覧会は華やかさを増し、4月10日からの企画展は宮尾登美子の『錦』と龍村平蔵の『美』展です。

ミュージアムショップでは『錦』の主人公のモデルである龍村平蔵が創設した龍村美術織物より鮮やかな文様を配した数々の和装小物を取り揃えました。いずれも美しい配色、卓越した織の技巧で『錦』の世界を感じられる日常使いの商品です。

この機会に、ぜひ世界に誇る京都西陣の龍村美術織物の商品をお買い求め下さい。(事業課／武田美佐)



▲ブックカバー各種

企画展年間案内

※企画展の観覧券には常設展の観覧券も含まれています。

4月
~
5月

宮尾登美子の『錦』と龍村平蔵の「美」展

平成24年4月10日(火)~5月27日(日)

場所:常設展及び企画展示室 観覧料:500円

詳細は館報の表紙・2ページ・3ページをご覧ください。



錦(龍村美術織物(株)提供)

6月
~
7月

川と文学

平成24年6月9日(土)~7月16日(月・祝)

場所:企画展示室 観覧料:400円

高知県には四万十川や仁淀川をはじめ、全国屈指の美しい川が多くあり、川を舞台とした文学作品も数多く存在します。井伏鱒二、森下雨村、宮尾登美子などの作品から、高知県の川、そして自然の美しさとそこに生きる人々を通じ、文学の素晴らしさを感じてみませんか。



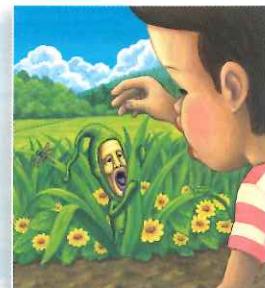
さまざまな文学の舞台となった清流・仁淀川

7月
~
9月

なばたとしたか絵本原画展 ~ナーランドへようこそ~

平成24年7月28日(土)~9月17日(月・祝) 場所:企画展示室 観覧料:500円

ナーランドへようこそ! 絵本『こびとづかん』『いーとんの大冒険』を生みだした、イラストレーター・なばたとしたかさんの想像力あふれる楽しい絵と物語の世界へお連れします。楽しい関連企画も盛りだくさんです。



「こびとづかん」©Toshitaka Nabata

9月
~
11月

「大原富枝生誕100年 ~書くことは生きること~」展

平成24年9月24日(月)~11月11日(日) 場所:企画展示室 観覧料:400円

日本芸術院会員で恩賜賞を受賞した大原富枝は、平成24年9月28日に生誕100年を迎えます。87年の生涯において「女性の成長する魂」を常に意識し、創作活動を続けてきた大原富枝の作品世界をご紹介します。



日本芸術院にて恩賜賞受賞後の
大原富枝(本山町立大原富枝文学館蔵)

11月

平成
25年
1月

大正ロマンの画家 高畠華宵の世界

平成24年11月24日(土)~平成25年1月27日(日) 場所:企画展示室 観覧料:400円

大正から昭和初期にかけて一世を風靡した挿絵画家・高畠華宵の作品を紹介する展覧会。「華宵好み」とよばれる独特の美人画は今多くのファンを魅了しています。大正101年の今年、高畠華宵の華麗なる世界をお届けします。



「青葉かけ」©弥生美術館

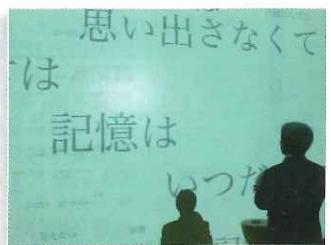
平成
25年
2月

平成
25年
4月

文学 Media Art 展 紀貫之からライトノベルまで

平成25年2月9日(土)~4月7日(日) 場所:企画展示室 観覧料:500円

文学とメディアアートという異なる分野の芸術のコラボレーションによって、より深く芸術世界を楽しもうという試みです。手ざわりや映像、音など、感覚を駆使した文学の新たな楽しみ方を体感してみませんか。



平野啓一郎+中西泰人
「記憶の告白—reflexive reading」(2007)

※この展示は、平成19年12月15日~平成20年2月17日にかけて東京都写真美術館にて開催された企画展「文学の触覚」を下敷きとして再構成したオリジナル企画です。

企画展
案内

宮尾登美子の『錦』と龍村平蔵の「美」展

平成24年 4月10日(火)～5月27日(日)

会場：高知県立文学館2F 常設展 及び企画展示室 会期中無休

観覧料：500円（常設展含む） 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）

宮尾登美子の小説『錦』と、初代龍村平蔵と彼が愛した織物の絢爛たる「美」の世界を紹介します。

展覧会の紹介をしています！ 詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。



錦（龍村美術織物（株）提供）



さまざまな文学の舞台となった清流・仁淀川

川と文學

平成24年 6月9日(土)～7月16日(月・祝)

会場：高知県立文学館2F 企画展示室 会期中無休

観覧料：400円（常設展含む） 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）

井伏鱒二、森下雨村、宮尾登美子などの作品から、高知県の川、そして自然の美しさとそこに生きる人々を通じ、文学の素晴らしさを感じてみませんか。

高知県立文学館 マスコットキャラクター募集！

高知県の文学に親しみを持っていただけのようなマスコットキャラクターを募集します！

最優秀賞
1名 **8万円**
賞状と賞金

優秀賞
数名 **1万円相当の賞品**
賞状と賞品

参加賞
応募者の中から抽選で
記念品を差し上げます♪

※最優秀賞・優秀賞の
賞金は、消費税を含む金額です。
ただし、中学生以下が入賞した
場合は、同額分の図書カードと
します。



【応募条件】どなたでも応募できます。

【応募方法】高知県立文学館館内で配布、またはHPからダウンロードできる指定の応募用紙に必要事項を記載のうえ、郵送、持参、電子メールにてご応募ください。
画材は自由です。※応募作品は、自作未発表のものに限ります。

※応募いただいた方の個人情報については、採用の連絡及び採用作品を発表する際に氏名等を公表すること以外に使用しません。

【お問合せ先】〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1-1-20
高知県立文学館 マスコットキャラクター係（永橋・門田）
TEL:088-822-0231 FAX:088-871-7857
e-mail : bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp

応募期間
4月15日(日)
～
6月16日(月)
必着

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時（入館は、午後4時半まで）

休館日 年末年始（12月27日～1月1日）を除き、無休。

観覧料 一般350円 企画展はそれぞれ異なります。

20人以上の団体は2割引。高校生以下無料、
高知県・高知市長寿手帳、身体障害者手帳、
療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳
および被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者
1名は無料です。

駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、子どものぶんがく室、
茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

E-mail : bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp
http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス（朝倉（高知大学前）行
または県庁前行） 「公園通り」下車 北へ徒歩5分
- JR高知駅下車徒歩20分（またはバス・路面電車を利用）
- 土佐電鉄電停高知城前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分

高知県立
文学館
〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857